

● 目次

- 2 ひととヒト (安井武次さん)
- 3 特集 それぞれの閉校物語
- 6 ① 行財政改革
～行財政改革2次プラン～
- 8 暮らしに役立つ耳より情報
- 10 健診(検診)へ出かけよう
- 12 なるほどなっとく市政講座
- 14 情報ランド(お知らせ)
- 18 みんなの本棚/児童館へ行こう
- 19 イベント情報
- 20 広がれ!市民のわ/
市長コラム/市長談話室
- 22 市民相談
- 23 休日医療情報/不用品活用銀行
- 24 まちの顔
- 26 能登よさこい祭り/わが家のアイドル

● 今月の表紙

新設された七尾東部中学校で、旧東部中、旧涛南中、旧北嶺中が統合して初めての入学式が行われた。新入生は224人で、全校生徒は631人となった。新入生代表の西野雄大君(表紙写真)は「チャレンジ精神を持って、力強く歩み続けていきたい」と誓いの言葉を述べた。

式に先立ち、新校歌の披露式が行われ、作詞作曲を担当した市文化協会理事長の橋元道彦さんの指揮に合わせ、全校生徒で斉唱した。

平成22年度から、5つの小学校の卒業生が入学することとなり、新たな歴史を刻むこととなった七尾東部中学校。それぞれの生徒は不安と期待を胸に、将来の進路に向けての新たなスタートを切った。

ひと

ヒト



本番に向けて飾りを製作する
安井さん

昨年の舞台の一つ

「でか山」に華をそえる

人形師

安井

武次

さん(85歳) 郡町

5月3日から5日にかけて行われる、国指定重要無形民俗文化財・青柏祭の曳山行事。その主役は「でか山」。でか山3台(鍛冶町・魚町・府中町)に飾る歌舞伎人形9体と背景の飾りを一手に担う安井武次さん。もともとは映画技師の仕事をしてきたが、魚町の人形を作っていた父親の影響もあり、自然と人形師の仕事にかかわるようになっていった。

本格的にかかわるようになったのは23歳の頃。魚町の人形師だった佐保さんの下で作業を手伝いながら、技を磨いた。昭和54年には、作業を続けられなくなった佐保さんに代わり魚町を任されることとなった。その後、各町を担当していた人形師がいなくなったことから、昭和58年には府中町を、平成5年からは鍛冶町も任されることとなり、現在に至っている。

人形のお披露目会にあたる「人形見」は2日の夕方と決められているため、人形を着付けするための材料がすべてそろう4月末頃からの数日間、長男の眞太郎さん(62歳)、次男の吉成さん(58歳)たちとともに、ほぼ徹夜での作業が続く。

今年の出し物は、七尾が生んだ画聖「長谷川等伯」で3町が題材を統一。魚町、鍛冶町、府中町の順に見ると、等伯が歩んだ歴史を振り返ることができるといふ演出も用意されている。「題材統一はいいことだが、反面、作り手としては同じ人物を登場させなければならぬという難しさもある。その違いをうまく表現できるか、本番を楽しみにしてください」と安井さんは人形に込めた思いを語る。でか山の迫力はもちろんだが、華やかな舞台を飾る人形たちにも注目したい。

北嶺中学校

それぞれの

閉校物語

～ 52年間の歴史に幕～

湊南中学校